

安 全 デ ー タ シ ー ト

整理番号 TNI 00136

作成日 2005/12/1

最終更新日 2015/1/1



1. 化学物質及び会社情報

会 社 : 大陽日酸株式会社
 住 所 : 〒142-8558 東京都品川区小山 1-3-26 東洋 Bldg.
 担当部門 : SI 事業部 担 当 者 : 平 博 司
 電話番号 : 03-5788-8695 FAX 番号 : 03-5788-8710
 緊急連絡先 : SI 事業部 (電話番号 03-5788-8550)
 メールアドレス : Isotope.TNS@tn-sanso.co.jp
 ホームページアドレス : <http://stableisotope.tn-sanso.co.jp>

化学物質	ジエチルエーテル
------	----------

製品名	ジエチル-d ₁₀ エーテル
-----	---------------------------

* 安定同位元素で標識された化合物は、標識核種及び位置により製品名称が異なりますが、安全性データは非標識化合物と同一とみなします。従って、特に指定しない限り本シートに記載されているデータは、非標識化合物のデータを採用しています。

2. GHS 分類

物理化学的危険性 :	火薬類	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外
	高压ガス	分類対象外
	引火性液体	区分 1
	可燃性固体	分類対象外
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	区分外
	自然発火性固体	分類対象外
	自己発熱性化学品	区分外
	水反応可燃性物質	分類対象外

健康に対する有害性：	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
	急性毒性（経口）	区分 4
	急性毒性（経皮）	分類できない
	急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
	急性毒性（吸入：蒸気）	区分外
	急性毒性（吸入：粉じん）	分類対象外
	急性毒性（吸入：ミスト）	分類できない
	皮膚腐食性・刺激性	区分 3
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分 2B
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	区分 2
	特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	区分 3（麻酔作用） 区分 3（気道刺激性）
	特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	区分外
	吸引性呼吸器有害性	区分 2
環境に対する有害性：	水生環境急性有害性	区分外
	水生環境慢性有害性	区分外

ラベル要素

絵表示又はシンボル：



注意喚起語：

危険

危険有害性情報：

極めて引火性の高い液体及び蒸気
飲み込むと有毒（経口）
軽度の皮膚刺激
眼刺激

生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い

眠気又は めまいのおそれ

呼吸器への刺激のおそれ

飲み込み、気道に侵入すると有害のおそれ

注意書き：

【安全対策】

すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

使用前に取扱説明書を入手すること。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。

防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。静

電気放電や火花による引火を防止すること。

個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること。

保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。

ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

容器を密閉しておくこと。

【応急措置】

火災の場合には適切な消火方法をとること。

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

飲み込んだ場合：無理して吐かせないこと。

眼に入った場合：水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。

皮膚を流水、シャワーで洗うこと。

皮膚（又は毛髪）に付着した場合：直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。

ばく露又はその懸念がある場合：医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合：気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。口をすすぐこと。

飲み込んだ場合：直ちに医師の診断、手当てを受けること。

眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

【保管】

容器を密閉して涼しく換気の良いところで施錠して保管する

こと。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成・成分情報

単一製品/混合物の区分・・	単一の化合物
化学名	ジエチルエーテル
別名	エチルエーテル、エーテル、エトキシエタン
含有量	99.5%以上
化学式又は構造式	$C_2H_5OC_2H_5$
官報公示整理番号	化審法：(2)－361
CAS番号	60－29－7
国連分類番号	3 等級 I
国連番号	1155 (ジエチルエーテル)
分子量	74.12

4. 応急措置

目に入った場合	直ちに清浄な水で十分洗眼し、眼科医の手当てを受ける。洗眼の際、まぶたを指でよく開き、眼球、まぶたのすみずみまで水が行き渡るように洗う。
皮膚に付着した場合	大量に皮膚に触れたときは、ラノリンのような軟膏を塗布する。
吸入した場合	新鮮な空気のところへ連れ出し安静にし、直ちに医師の処置を受ける。呼吸が止まっている場合には人工呼吸を行い、呼吸が弱い場合には酸素吸入するか、必要ならば人工呼吸を行う。
飲み込んだ場合	水でよく口を洗わせ、直ちに医師の診察を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤	アルコール泡、粉末、炭酸ガス消火器、ハロゲン
消火方法	初期消火には粉末、炭酸ガス、泡沫、砂などを用いる。棒状水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある（禁水）。周辺火災の場合、周辺の設備などに散水して冷却する。また、移動可能な容器は、安全な場所に速やかに移す。
消火活動上の注意事項 ..	速やかに必要な箇所に通報し、応援を求める。火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。

6. 漏出時の措置

..... 必要な箇所に通報し、応援を求める。漏洩した場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。付近の着火源を取り除く。消火用器材を準備する。漏洩した液は、土砂、土壌などで流出を防止した上で容器等に回収する。作業に際しては、風下を避け保護具を着用するなどして、蒸気を吸収又は皮膚に付着しないようにする。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 火気、静電気、衝撃火花などによる着火源の生じないように注意する。漏洩を防止する。保護具を着用する。移液の際には金属部分を接地しておく。

保管 容器は密栓し、決められた場所（冷暗所）に保管する。保管の際には上記他、直射日光を避け高温物を近づけないようにする。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度 労安法度管理濃度：400 ppm

許容濃度 TWA : 400 ppm 1200 mg/m³
STEL : 500 ppm 1500 mg/m³

保護具 保護眼鏡の着用。ゴム手袋、保護前掛けの着用。静電気対策に静電服、静電靴の着用。有機ガス用防毒マスク。ガス濃度が高い場合は、送気マスク、空気呼吸器を使用。

設備対策 作業環境を許容濃度以下に保つため、局所排気を行うこと。洗眼器及び安全シャワーはいつでも使用できるように準備しておくこと。

9. 物理及び化学的性質

外観等 無色透明液体。甘い刺激臭。

沸点 34.6℃ (760 mmHg)

融点 -116.3℃

比重 0.7143 (20/4℃)

溶解度 水 (4.55 wt% / 40℃)
アルコール、クロロホルム、ベンゼンに可溶。

蒸気圧 442 mmHg (20℃)
1734 mmHg (60℃)

蒸気比重 2.56 (空気=1)

引火点		− 4 5℃
発火点		1 8 0℃
爆発限界		下限：1． 8 5 v o l % 上限：4 8． 0 v o l %
粘度		0． 2 4 4 8 c p s 2 0℃
爆発性		揮発性で、室温でよく蒸発し、空気中に広範囲に拡散して爆発性混合ガスを作る。蒸気は空気より重いので低いところに滞留する。爆発性の過酸化物を生成しやすい。

10. 安定性及び反応性

.....	安定。空気に触れると不揮発性の過酸化物を生成しやすく、光又は保存時の温度の上昇によって更に促進される。密閉容器内にある時、1 6℃以下で容器内に（爆発限界内である）爆発性混合ガスができる。
-------	--

11. 有害性情報

急性毒性		経口 ラット LD 5 0 1 7 0 0 m g / k g 2 0 0 0 p p mを越える濃度で眩暈を起こし、3 5 0 0 p p m以上で意識不明。1 0 0 0 0 0 p p m（1 0 %）以上では呼吸麻痺によって死亡する。
刺激性		液が眼や皮膚につくと刺激作用がある。
皮膚腐食性		データなし。
感作性		データなし。
亜急性毒性		データなし。
慢性毒性		一般症状として、めまい、頭痛、疲労、食欲減退、不眠等がある。
がん原性		データなし。
変異原性		データなし。
生殖毒性		データなし。
催奇形性		データなし。

12. 環境影響情報

分解性		データなし。
蓄積性		データなし。
魚毒性		水棲生物に有害 金魚 LD 0 2 1 3 0 m g / l LD 5 0 2 8 4 0 m g / l LD 1 0 0 3 6 0 0 m g / l

13. 廃棄上の注意

..... ケイソウ土等に吸収させて開放型の焼却炉で少量ずつ焼却する。焼却炉の火室へ噴霧し焼却する。

14. 輸送上の注意

..... 取扱い及び保管上の注意の項の記載による他、引火性液体に関する一般的な注意による。その他、消防等の法令に定めるところに従う。

15. 適用法令

労働安全衛生法	名称等を通知すべき危険物及び有害物 名称等を表示すべき危険物及び有害物 危険物・引火性の物 第2種有機溶剤等 作業環境評価基準
消防法	第4類引火性液体、特殊引火物
麻薬及び向精神薬取締法・	麻薬向精神薬原料
大気汚染防止法	揮発性有機化合物 法第2条第4項
海洋汚染防止法	有害液体物質（Z類物質）
バーゼル法	廃棄物の有害成分・法大2条第1項第1号イに規定するもの
航空法	引火性液体
船舶安全法	引火性液体類
港則法	その他の危険物・引火性液体類
道路法	車両の通行の制限
外為法	輸出貿易管理令別表第2） 輸入貿易管理令第4条第1項第2号輸入承認品目「2の2号承認」 輸出貿易管理令別表第1の16の項
労働基準法	疾病化学物質

16. その他の情報

【参考文献】

危険物ハンドブック ギュンター・ホンメル編 新居六郎訳
シュプリングラー・フェアラーク 東京株式会社発行(1991)
化学品法規制検索システム 日本ケミカルデータベース

- ＊ この安全データシートは、各種の文献などに基づいて作成していますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。また、含有量、物理及び化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。なお、注意事項は通常の実用を対象としたものであり、特殊な取扱いをする場合には、その用途・用法に応じた安全対策を実施して下さい。